

みどりの風



おちやのたね

- ・おおらかに
- ・チャレンジ
- ・のびのび
- ・ただしすがた・たすけ合う
- ・ネバーギブアップ



令和5年12月22日 校長 池田 誉

一人一人が大きく成長した2学期

12月に入り、冷え込む日が増えましたが、子どもたちは元気いっぱいです。業間休みや昼休みは、多くの児童が外に出て遊んでいます。鉄棒やなわとび、雲梯に挑戦し、努力している児童の姿には感心させられます。



また、11月頃からは、多くの児童が集まってドッジボールを楽しむ様子が見られます。1年生から6年生まで学年関係なく一緒に遊んでいます。様子をよく見ると、大きい子が小さい子を狙うときはボールの強さを少し加減していたり、ボールを持った子が他の子に投げるのを譲ったりと、友達を気遣っていることがうかがえます。自分だけが楽しければ

よいのではなく、みんなが楽しく過ごせることの大切さを知っている富原っ子です。

運動会や学習発表会という大きな行事があった2学期。子どもたちは、練習を重ねる中で、最初できなかったことができるようになる達成感や、みんなで協力してひとつのことに向かっていく一体感を味わったことでしょう。また、日々の学習の中で、お互いに考えをしっかりと伝え合い、友達と協力しながら活動する力も伸びています。これらは、子どもたちが毎日少しずつの「チャレンジ」を積み重ねてきた成果と言えます。また、一人一人が自信をもち、のびのびと生活し、友達に対しておおらかに優しく接する姿もいろいろな場面でたくさん見ることができました。

長かった2学期を終えて、「がんばれた」「自分は成長した」と児童自身が実感できることが何よりも大切です。それに加えて、いろいろな人にほめてもらうと「次はもっとがんばろう!」という意欲につながります。本日持ち帰った通知表には、一人一人のしっかり伸びた様子が表れています。がんばったところをたくさんほめていただきたいと思います。そして、新しい年にはりきってスタートできるように、冬休みにご家庭でよい時間をたくさん過ごし、エネルギーを蓄えてほしいと思います。



この2学期、保護者の皆様を始め、多くの方のご協力とご理解に対して、改めて感謝申し上げます。来たる令和6年も、子どもたちが安心して過ごし、力を伸ばしていけるよう、地域・家庭・学校で力を合わせていけたらと思います。今後ともよろしくお願いたします。

人権週間の取組として「なかよしの木」を作りました。友達や自分のがんばっている姿やよいところをハート型のカードに書いて貼っています。富原っ子の優しさ、友達や自分を大切に思う気持ちが伝わってきます。

進んで考え、学び合う子に

11月24日（金）に1・2年生の生活科の研究授業が行われました。動くおもちゃづくりに使う輪ゴムや磁石、ひもなどの素材の特徴を、自分たちでいろいろ試しながら見つける学習でした。一人一人が考えたことを他の人に伝えたり一緒にやってみたりしながら、熱心に取り組んでいました。



また、12月5日（火）には5・6年生の総合の研究授業が行われました。「富原のお茶をアピールする方法を考えよう」という課題について、出たアイデアをよりよいものにしようと、グループでしっかりと対話をしながら考えを深めていました。

このような姿から、今求められている「対話的で深い学び」が少しずつ定着し、児童の自分の考えを伝えたり友達の話を聴いたりする力が伸びていると感じます。また、お互いを認め合い、協力して学び合う心も育っています。

児童集会や各行事の中で、めあてについての振り返りや感想を発表できる児童も増えていきます。周りの人がきちんと聴いてくれるので、安心して自分の思ったことが言える環境が整ってきているとも言えます。温かい人間関係づくりをさらに進め、その中で自分を表現できる力をさらに高めていけるよう、これからも研究を進めていきたいと思えます。

林業について学ぶ

11月29日（水）に3・4年生が、真庭市内の林業に関する施設の見学に行きました。特別非常勤講師の梶岡泰士さんに案内していただき、丸太が集まる「原木市場」、森林を管理する「森林組合」、丸太を加工する「製材所」、木材製品が集まる「木材市場」を見学しました。



1学期には、富原の森林で木を切り出す様子を見学しており、今回は、切った木がどのように加工され、流通していくのかという流れを自分たちの目で確かめることができました。

3・4年生は、どの見学場所でも意欲的に話を聞き、熱心にメモを取っていました。地域の大事な産業についてしっかり学習することができました。

富原小学校の歴史②（1890年～1908年）

※No.9（10/31）からの続きです

明治23年（1890年）に後谷簡易学校を合併した富原小学校の前身の「尋常井原小学校」は、3年後の明治26年（1893年）に「井原尋常小学校」と名前が変わります。「尋常小学校」は満6歳以上の児童に初等教育を施す4年間の義務教育の小学校です。

明治31年（1898年）には校舎を増築し、月田本分教場が統合されました。明治34年の記録では第1学級（尋常1年生）65名、第2学級（尋常2年生）58名、第3学級（尋常3・4年生）48名の合計171名が在籍していたようです。

明治35年（1902年）には富山村と井原村が合併して「富原村」が誕生します。富山の「富」と井原の「原」が合わさって、「富原」という今に伝わる地名が生まれました。

翌年には尋常科4年に加え、「高等科」4年が設けられました。旧富山村の「富山尋常小学校」には高等科がなかったため、富山の子どもたちは高等科になると井原尋常小学校に通うことになりました。明治41年（1908年）には義務教育が6年に延長されたため、尋常科6年、高等科2年になります。

教育のしくみがどんどん変わっていることに驚かされますが、この頃の日本は、日清・日露戦争を経て国際的に存在感を高め、国内でも産業が発展します。富原でも植林やお茶の生産が盛んになり、人口や児童数も増え、新しい校舎の建設に向けての議論が活発になっていきます。（続く）

明治40年（1907年）の学校沿革誌には、高等科を含めて7学級、274名が在籍していたことが記されています。

学年	人数	合計
尋常科 第1学級	65	171
尋常科 第2学級	58	
尋常科 第3学級	48	
高等科 第1学級	65	274
高等科 第2学級	65	
高等科 第3学級	65	274
高等科 第4学級	65	
計	274	